

携帯端末向けマルチメディア放送に関する調査検討会概要

アナログテレビ放送の停波後の周波数の一部を利用した携帯端末向けマルチメディア放送(VHF-High帯)は、平成24年4月より東名阪及び九州・沖縄で、同年12月には札幌市及び旭川市において放送が開始されており、平成25年度内には、全都道府県においてサービスが開始される予定。

同放送は、ビル陰又は地形等の条件により良好な受信ができない地域が発生し、難視聴地域の早期解消とともに、継続した受信が可能な送信システムの開発が待たれているところ。

また、中継局への伝送路として衛星を利用していることから、臨時中継局を設置しやすく、災害時等においても有効な情報伝達手段のひとつとして期待されている。

本調査検討会では、難視聴地域における中継送信システムの技術的条件及び非常災害時等における衛星波中継方式による情報伝達の手法に関し、実証試験を交えた調査検討を行い、平成26年1月末を目処に報告書を取りまとめる予定。

目的

携帯端末向けマルチメディア放送(VHF-High帯)の良好な受信環境確保に向け、難視聴地域における送信システムの技術的条件及び非常災害時等における衛星波中継方式による情報伝達の手法に関する調査検討を行う。

検討項目

調査検討会の目的を遂行するために、次の項目について検討する。

(1) 難視聴地域における送信システムの技術的条件

- ア. 難視の現状とそのメカニズム
- イ. 置局に関する技術的課題
- ウ. 隣接する周波数を使用する他の無線システムとの干渉
- エ. 安全・信頼性確保のための措置(設備の損壊又は故障に対する措置)

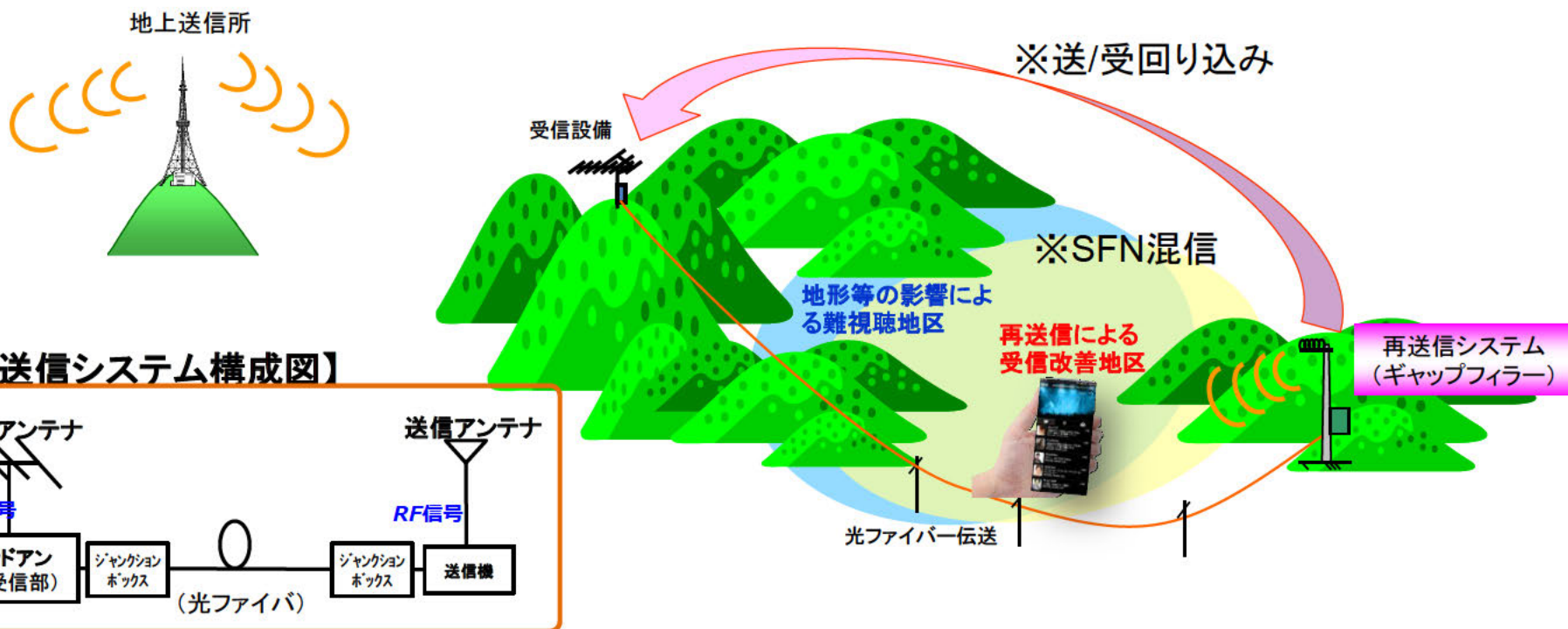
(2) 非常災害時等における衛星波中継方式による情報伝達の手法

- ア. 衛星波中継方式による放送局の必要性及び需要
- イ. 使用環境の特殊性とそれに基づく要求条件
- ウ. 設置に関する技術的課題
- エ. 隣接する周波数を使用する他の無線システムとの干渉

(1) 難視聴地域における送信システムの技術的条件

調査検討項目

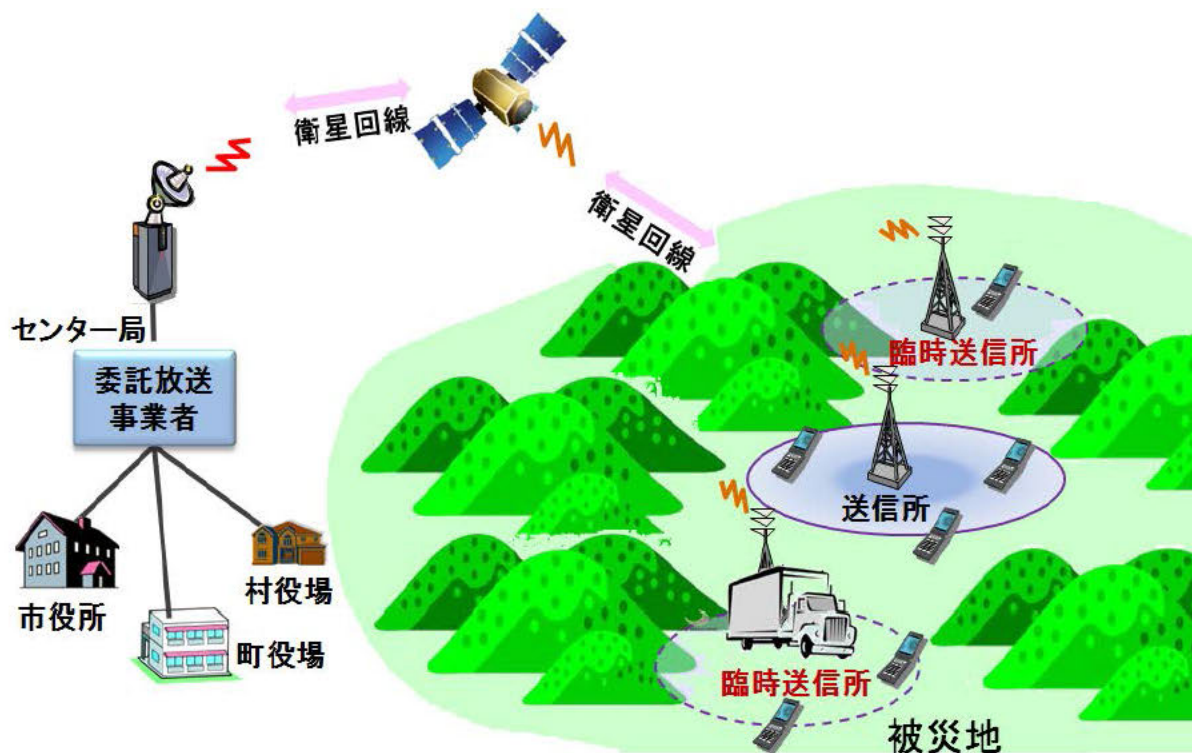
- (1) 難視の現状とそのメカニズム
地形や建造物の影響により、良好に受信できない難視聴環境について調査検討
- (2) 置局に関する技術的課題
送信システムを置局する際の技術的課題の整理と実地検証(SFN混信、送/受信回り込み等)
- (3) 隣接する周波数を使用する他の無線システムとの干渉
隣接する周波数(公共ブロードバンド等)との干渉について机上検討
- (4) 安全・信頼性確保のための措置
設備の損壊又は故障に対する措置について、対応手法等を机上検討



(2) 非常災害時等における衛星波中継方式による情報伝達の手法

調査検討項目

- (1) 衛星波中継方式による放送局の必要性及び需要
非常災害時等において、臨時送信システムにより情報伝達する必要性等について検討
- (2) 使用環境の特殊性とそれに基づく要求条件
臨時に送信システムを開設するにあたり、その特殊性や手続き等要求条件を整理する
- (3) 設置に関する技術的課題
臨時に設置する送信システムについての技術的課題等を検討(システムのサイズ、送信高ほか)
- (4) 隣接する周波数を使用する他の無線システムとの干渉
隣接する周波数(公共ブロードバンド等)との干渉について机上検討



マルチメディア放送 (VHF-High帯)

- 高品質・高画質の①リアルタイム型放送、従来の放送にはない②蓄積型放送と③通信と放送の連携(機能及びサービス)を提供
- 動画・音楽のほか新聞・雑誌、電子書籍、ゲーム等の様々な形式のコンテンツを提供

①リアルタイム型放送

- 従来のTVのように放送を受信しながらライブ映像が視聴できる。



気になる情報をリアルタイムに



②蓄積型放送

- 従来の放送と異なり、映像ファイル等を一旦蓄積し視聴できる。

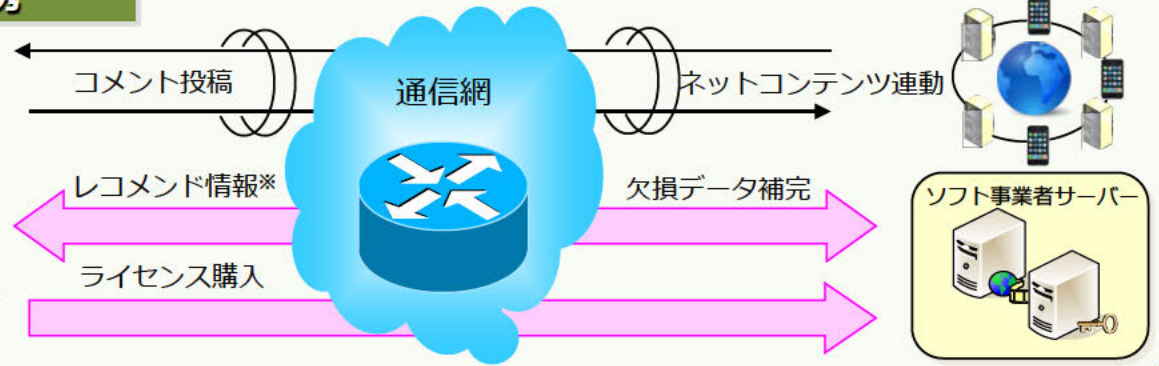
- ・ さまざまなコンテンツ
- ・ レコメンドも

ケータイ内に自動蓄積

いつでも好きなときに利用



③通信ネットワークとの連携



※利用者が関心を持ちそうな「お勧め情報」。